

会長の時間 ●富田会長

12月は疾病予防と治療月間となっています。月間の本来の意味と異なりますが寒い折柄、会員の皆様にはご自愛頂きます様お願いします。

さて、本日は、次年度のクラブの役員・理事選出に関する年次総会を開催致します。11月の地区の戦略計画セミナーでは、クラブ活性化のポイントは会員増強という指摘がありましたが、ご周知の通り、当クラブは地区の中でも会員減少の深刻な状況にあります。クラブの持続可能性を考えれば、例会や会員構成に於いて何らかのイノベーションが必要なことは自明の理です。

次年度の会員構成を検討する時期になるとロータリーでは「役職を頼まれたら断ってはならない。」とか「ノーと言うなよ。ロータリアン」と先輩会員から教えられて来ました。非公式のこれらの標語は、決して義務的な強制の方便ではなく、特に新しい会員の皆様には是非とも、役職を受けることは、自己研鑽となる好機とポジティブに捉えて頂きたいと思えます。

ロータリーの会員企業は大会社もある一方で、中小零細企業も多く、自己研鑽の機会も乏しいのが実情ですが、その点、ロータリーは会員に「世界標準の学び」と「人づくりの場」を提供するだけでなく、様々な役職を経験することで新たな景色を見ることができます。また、地域に留まらず、広範に交流が拡がり、時にはかけがえのない「友」を得ることも可能となります。従って、役職を受けることはある意味で「利己利他の調和」の始まりであり、ロータリーに関われば関わるほどリターンも大きくなるものと確信します。

そして、役職を受けることは、職務や諸規定に精通でき、ロータリーの深い理解につながりますが、知識取得に留まらず、様々な会員と考えを交換して良い刺激を受けたり、リーダーシップや人徳の向上にもつながったり、これらのスキルは職場や地域社会でも大いに活用できるものと考えます。繰り返すと、役職を受ける事は、会員にプラスになると確信しますが、ロータリーの標語は義務的なニュアンスを伴うものの、実際は絶好の機会に繋がることを十分理解して頂ければ幸いです。

また、「ノーと言うなよ」という標語は、とかく壊れやすい絆や組織に於いては、役職を「頼む側」も「受ける側」も暗黙の了解として活用されて来たので、これまでロータリーの組織維持に大きく貢献して来たと思えます。この不文律がなければ、ロータリーの様な非営利団体で、1年毎の役割交替をスムーズに進めることは難しかったとも思えます。

本日の年次総会は、当クラブも会員減少により重要ポストも再任を余儀なくする事態となっていますが、これを真摯に受け止める一方で、一部の会員に過度な負担が偏ることをできる限り回避し、会員が総活躍できて楽しめるクラブにしなければならぬと痛感します。

最後になりましたが、会員の皆様には後程、次年度理事・役員を選出のお諮りを宜しくお願い致しますと共に、本日選出される理事・役員の皆様には、夫々就任して頂ける役職について、渡辺和子の「置かれた場所で咲きなさい」という言葉を贈らせて頂きたいと存じます。